

CCUS研究開発・実証関連事業

令和2年度概算要求額 **75.0億円 (73.1億円)**

事業の内容

事業目的・概要

「エネルギー基本計画（平成30年7月閣議決定）」や「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（令和元年6月閣議決定）」に定められた二酸化炭素回収・貯留（Carbon dioxide Capture and Storage：CCS）技術の2020年頃の実用化、その後の商用化、将来の社会実装を見据え、以下の事業を実施します。

（1）CCS大規模実証継続とカーボンリサイクルへの展開等

CCS大規模実証試験において、CO₂の海底下貯留の許認可を規定する海洋汚染防止法を遵守すべく、引き続き圧入したCO₂の分布及び海域の状況を監視（モニタリング）します。また、主に船舶によるCO₂の長距離輸送の実証に向けた調査を行います。加えて、既存設備で分離・回収したCO₂を利用して、化学品等を製造（カーボンリサイクル）していくための実現可能性調査を開始します。

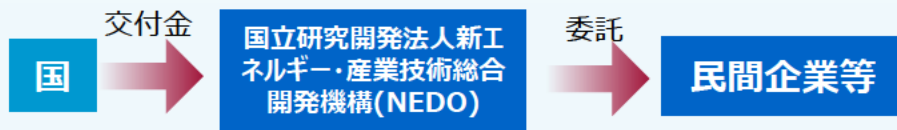
（2）安全なCCS実施のためのCO₂貯留技術の研究開発

大規模で効率的なCO₂圧入や貯留を安全に実施するために必要となる安全管理技術等を確立するための研究開発を実施します。

成果目標

- 2050年度における温室効果ガス排出量を80%削減することに貢献します。
- 2025年度までに安全なCCS実施及び効率的なCO₂貯留のための技術の確立を目指します。

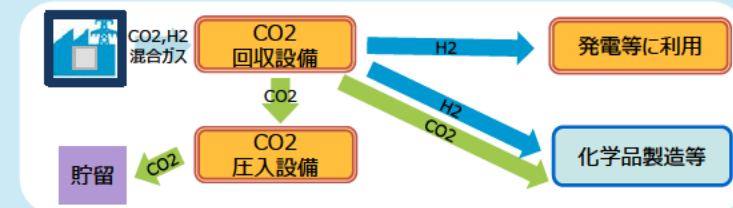
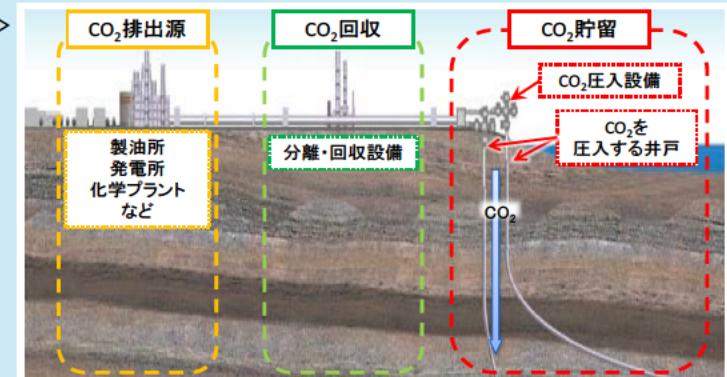
条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

- ① 苫小牧沖地中に圧入したCO₂のモニタリング等の実証試験を継続
- ② CO₂の長距離輸送手段の確立に向けた調査
- ③ CO₂の分離回収から生じた副生水素を利用した化学品製造等の実現可能性調査

<イメージ図>

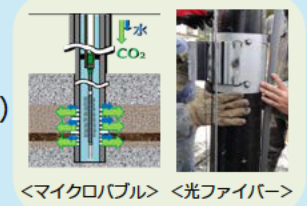


- ① 安全性確保のための最適なモニタリング技術・手法の開発

（例：光ファイバー等を用いたモニタリング技術）

- ② 効率的なCO₂貯留のための技術・手法の開発

（例：マイクロバブルを用いたCO₂溶解促進技術）



※CCUS：二酸化炭素回収・利用・貯留（Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）